

## 平成29年度 第6回豊田市商業振興委員会会議録

【日 時】 平成30年3月20日 曜日 午後1時00分 ～ 午後4時30分

【場 所】 豊田市役所 南庁舎5階 南53会議室

【出席者】 〈委員〉

尾碕 眞 [愛知学院大学商学部商学科 客員教授 博士]  
松永 郁也 [豊田商工会議所 常議員]  
大橋 宏 [豊田信用金庫 部長 中小企業診断士]  
河原 郁子 [とよた下まちおかみさん会 平成24年度会長]  
杉田 雅子 [株式会社 杉田組 ブルーベリー事業部取締役]  
新田 都子 [高岡地域消費者グループ代表]  
元岡 征志 [シー・プロジェクト代表 中小企業診断士/社会福祉士]

〈事務局〉

早川 正文 [豊田市産業部商工振興室長]  
清水 章 [豊田市産業部商業観光課課長]  
成瀬 剛史 [豊田市産業部商業観光課副課長]  
長嶋 友也 [豊田市産業部商業観光課主査]

【傍聴者】 なし

【次 第】

開 会

- 1 会議の公開及び本日の審議スケジュールについて
- 2 委員長あいさつ
- 3 議事
- 4 産業部商工振興室長あいさつ
- 5 その他

## 【会議録（要約）】

### 1 会議の公開及び本日の審議スケジュールについて

### 2 委員長あいさつ

### 3 議事

#### （1）山之手発展会 商店街等活性化計画の策定について

山之手発展会から資料に基づき説明を行い、委員から意見を聴取した。

#### 【主な質疑応答】

##### 委員

チラシ等の紙媒体だけでなく SNS を利用するのは良いと思うが、ネットに情報を載せるだけではお客は来ない。重要なのは、情報発信の内容や店自体が魅力的であるかどうかである。

人材育成事業で、個店の魅力向上や情報の発信方法についてのセミナーをやっていただくと良いのではないか。

##### 委員

一部の金融機関では、顧客との LINE グループを作っており、そこで商店街の情報を発信してくれている。このような方法も検討すると良い。

##### 委員

個店の魅力は、若者のニーズと合っているのか。

賑わいを創出するには、人を集めるホテルや病院などの地域資源に注目すること。

また、各店の入り口に QR コードを貼付けて、それを読み込むと店内の様子や店主の紹介とかが流れるという様な工夫をしてみてもどうか。

##### 山之手発展会

今後、会員と話し合って事業の詳細を決めていく。

#### （2）商店街等活性化計画の中間報告について

各商工会及び商店街から資料に基づき説明を行い、委員から意見を聴取した。

##### ア 下山商工会

#### 【主な質疑応答】

##### 委員

カード会員の利用減少のネックになったのは何か。

##### 下山商工会

地元の住民人口が1年前と比べて減少したことが主な要因である。

委員

来年度は、地元の人にいかにポイントカードを利用してもらうような事業を展開していくのか、考えを教えてください。

下山商工会

ポイントカード利用の利点をもっとPRしていくことは必要であると考えており、ポイントの倍増等で集客に繋げるようにしていく。

委員

こぼっちウォーク事業はどのようにしていくのか。

下山商工会

基本的には今までと同じ流れで実施し、豊田市近隣の岡崎市等新しい地域でPRをしていく。

委員

ポイントカード利用を考えて地元の人をターゲットにするのか、下山のまちを知ってもらうために広域にPRしていくのか。目的をはっきりして事業を進めていった方がよい。

委員

一時的なイベントだけでなく、継続的に名産を販売している店があれば良いが、道の駅のような店ができるのと個人の店は、寂れていってしまうのか。

下山商工会

道の駅のような形態として「下山の里」がある。最近は、土日に山を歩いている人が増えており、そういう人をうまく引き込めると良いと思っている。

委員

今年度参加してもらった人に、来年度も参加してもらえるような工夫はしているのか。また、なぜ参加者と同じ地域のボランティアを募らないのか。

人を集める工夫をしないとイケない。

委員

イベントを実施するのであれば、リピーターやファンを増やしカード利用者を増やしていくと良い。

イ 小原商工会

【主な質疑応答】

委員

四季桜にちなんだ卵商品というアイディアは面白くて良いと思う。おいしい商品であることは当たり前だが、それだけでなく、いかに美味しそうに見せるかが大事である。また、SNS等の情報発信を念頭において考えた方が良い。

委員

特産品開発事業に、専門家は入っているのか。

小原商工会

養鶏農家と飲食店経営者は開発メンバーに入っているが、商品開発分野の専門家はいない。

委員

特産品開発はプロが入らないとできない。今年の10月から12月行われるディスプレイーション愛知では小原がコースに入っているので、その時に試食ができるよう、急いで開発してもらいたい。

軽トラ市の人々が積極的にイベントに出て、小原のPRをしているのを見かけるが、PRできる商品が少ないと言っている。そのためにも、この特産品開発は本腰を入れて早く進めてほしい。

委員

特産品開発は27年度からやっているようだが、そのとおりか。

小原商工会

27年度から実施しているが、卵を使った特産品を考え始めたのは28年度からである。

委員

特産品開発を始めたころから考えると、長い時間を使っているにもかかわらず成果が出ていない。時間が掛かっている原因を理解して開発を進めないと、今後も進まないし、時間が掛かるほど開発メンバーのやる気も削がれてしまうので、他の委員も言われたように、早急に進めてほしい。

委員

卵というのは巷に多くの商品が溢れているので、競争力を持たせるためには味や見た目等、様々なところで他の商品との差別化を図らなければ難しい。

## ウ 藤岡商工会

### 【主な質疑応答】

#### 委員

WEB商店街システムの登録事業者数が少ないということだが、地域内の事業者数の中で、多くの事業者が自社のホームページで購入ができるシステムを持っているのか。

#### 藤岡商工会

WEB商店街に購入できるシステムはなく、なた、藤岡商工会の会員であれば無料で作成できるが、それでは非常に簡易的なものしかできない。

#### 委員

自社のホームページと購入できるシステムを持っている事業者数は把握しているのか。

#### 藤岡商工会

把握はしていないが、基本的な店舗情報はWEB商店街システムに載せている。

#### 委員

インターネット環境がある事業者は、WEB商店街システムに関心があると思われるが、逆にインターネット環境が無い事業者は、WEB商店街システムに関心が薄いと思われるが、登録者数を増やしたいのであれば、事業者のインターネットへの関心度を把握しているのか。

#### 藤岡商工会

把握している限りでは、ほとんどの事業者は高齢の方が多い。ただ、WEB商店街システムの作成がきっかけでツイッターを始めた方がおり、また、経営者自身はできないが、得意な従業員にやってもらうこともあり、そして推進した。

#### 委員

世の中でインターネットやSNSを使う人は、同世代の人や仲間が使っている環境があるから使っているのであり、そういった環境を持つことが重要である。

お年の方は、周りの同世代や仲間がインターネットやSNSを使っている人が少ないため、そのような方たちに普及させるためのアプローチを行うには、工夫が必要である。

#### 藤岡商工会

初回の立上げ時での事業者としてのメリットを、口コミで広めていく必要がある。まずは知ってもらう必要があるが、どのように広めるのかは今後の課題である。

## 委員

ホームページではホットな情報を提供することが重要であるため、1カ月に最低1回は更新することが必要であり、また、情報が更新されていることを確認するための管理者としての立場の人が必要である。

## 藤岡商工会

次年度以降はどう活用していくか考え、また、更新が滞っている事業者には声掛けをしていく。

## 工 一番街商店街振興組合

### 【主な質疑応答】

## 委員

貸店舗化するための講習会とはどのようなものか。宅地になりそうなところがあるか。

## 一番街商店街

当商店街は、シャッターは下りていても玄関にはしていない商店街である。一度玄関にしてしまうと、商店に戻るのがとても難しいという理解はあるが、貸店舗にするステップまで踏み出せていないため、講習会を開くものである。

## 委員

桜城址公園でマルシェ等のイベントがあるが、この成果はどうか。

## 一番街商店街

飲食は賑わっているが物販は厳しく、取組みとしては良いが先行きは難しいと感じる。

## 委員

空き店舗はどれくらいあるか。

## 一番街商店街

商店街エリア内で3店舗ほど候補地がある。

## 委員

後継者はどのような状況か。

## 一番街商店街

当商店街は、店主が比較的若いいためしばらくは問題ないが（理事会構成員も50代以下）、その次の世代がいらない。店主が75歳を超えており、後継者もいないという状況の店舗が3、4件ある。

委員

ふれ愛フェスタと商店街の売上げの相関性は。

一番街商店街

ふれ愛フェスタの会場のほとんどが当商店街のエリア外であり、また、当日は店主もイベントを手伝っているため、売上げは通常よりも少ない。

(3) 豊田市商業活性化プラン（2018-2020）について

事務局から資料に基づき説明を行い、委員から意見を聴取した。

【主な質疑応答】

委員

車に乗ることが出来てどこにでも行ける人と車に乗れない人では、意見が変わってくるのではないか。

事務局

車に乗る人は駐車場を充実してほしいという意見がある一方、車に乗らない人は公共交通を充実させてもらいたいという意見が出ている。

委員

いろいろ意見が出ているが、それを計画に反映させようというような内容はあったのか。

事務局

プランの素案に対して具体的にこう修正すべきという旨の意見がなかったため、特に出された意見を基にプランに反映することは今回考えていない。

4 産業部商工振興室長あいさつ

5 その他

事務局より、平成 30 年度の商業振興委員会年間スケジュール等について説明し、閉会した。

以上